

サポクラ 通信

令和5年(2023年)4月号

今月の内容は...

- ・春 新体制がスタートです！1
- ・ガビアルモドキの繁殖に向けて4
- ・豊作を願って7

春 新体制がスタートです！

円山動物園サポートクラブの皆様、いつも円山動物園をご支援いただきありがとうございます。今年度も飼育展示一担当係長として、勤務する坪松（つぼまつ）です。

引き続き、よろしくお願いいたします。

さて、今年度より飼育展示課は、飼育展示・診療担当課となり、飼育展示一担当、二担当、三担当、診療の4係体制となりました。

飼育展示一担当は、担当する動物が減り、こども動物園とゾウ舎を担当することになりましたので、今回は、飼育展示一担当で働く職員の様子を踏まえ紹介したいと思います。



ちなみに、他の係の担当は以下のとおりです…

一担当	こども動物園、ゾウ舎
二担当	猛禽類、モンキーハウス、チンパンジー館、サル山、熱帯鳥類館、総合水鳥舎、エゾシカ・オオカミ舎、エゾヒグマ館、ホッキョクグマ館
三担当	カンガルー館、アジアゾーン（熱帯雨林館、高山館、寒帯館）、アフリカゾーン（カバ・ライオン館、キリン館）

飼育担当係長が増えて、担当する動物と職員（飼育員）が減ったので、今まで以上に目を光らせて(*◇_◇*)、皆様に動物園を楽しんでいただけるよう努めてまいります！

★メモ★「朝礼」

円山動物園では、朝作業に入る前に、動物園センター前で、朝礼を行います。

朝礼当番（司会）の朝の一言は、それぞれの個性が出て、コミュニケーションの活性化になっています。

ラジオ体操で体をほぐします⇒



こども動物園

こども動物園は、飼育員 5 名のうち 4 名が 4 月からの新採用（うち 1 名は以前、当園で働いていた職員）となり、現場も大忙しです。

仕事に慣れるまで、私もアライグマと鶏舎(ニワトリ)を担当していました。2 週間もたつと、現場の雰囲気になれ楽しく仕事をしています。

▶朝のミーティング

- ・ 昨日の動物の状態
 - ・ 当日の業務
 - ・ 特別な予定
- などを確認します。



◀休園週間の作業

防鳥ネット張り、調理場や倉庫の整理・清掃など、開園時にはできない作業を行います。

写真は、鶏舎の屋外放飼場を緑化するため、種を蒔いています。

★メモ★

ペアリング中のモルモット「あげ」。無事出産し、ふれあい教室の新しい仲間が増えてくれるよう願っています。



★メモ★

この冬でだいぶ毛が伸びました。毛刈りの季節ですね。

6 月 6 日「ヒツジの日」も楽しみにしてください。



ゾウ舎

アジアゾウ「パール」が妊娠していることから、アジアゾウの体制は変わりません（会計年度職員が1名入れ替わりましたが）。4月上旬にゾウの専門家アラン氏を招聘し、アジアゾウのトレーニングの研修や出産に向けた準備の確認を行いました。



◀研修時のミーティング

通訳を交えてアラン氏と円山動物園のゾウ飼育について細かく話し合います。出産に向けてチームの意識を高めます。

▶仔ゾウ用のトレーニング

シュート

仔ゾウは、小さいので専用のトレーニングエリアが必要になります。もちろん、大人のゾウは入れません。



▼目の周りを触るトレーニング

目は、角膜が傷つくなど疾患が多い場所です。

獣医が診察しやすいよう、また、目薬などの治療ができるよう、こんなトレーニングもしています。



★メモ★

今のところ、母子ともに健康です。いつ生まれるか、緊張の日々が続きますが、無事に出産してもらえることが一番です。



～ガビアルモドキの繁殖に向けて～

サポクラ会員の皆様いつもご支援ありがとうございます。先月に引き続きまたまた登場いたしましたは虫類担当の片岡です。今回の通信では当園で飼育しているガビアルモドキについて、繁殖に向けて様々な動きがありましたのでご報告いたします！

ガビアルモドキ(マレーガビアル)クロコダイル科

CITES:付属書 I レッドリスト(IUCN):VU(危急種)

分布:インドネシア(スマトラ島、ボルネオ島)、マレーシア

生息地:河川や湖沼など

食性:動物食(主に魚類、小型の脊椎動物など)

全長 3～5m 大型のワニで雄の方が大きくなります。他のクロコダイルの仲間に比べ、吻(口先)が細長いのが特徴。その吻がガビアルの仲間に見えるため、ガビアルモドキと呼ばれています。吻が細長いことで、ほかのワニと比べ水中で素早く吻を動かすことができ、魚を捕らえやすくなっています。

生息地の破壊や皮目的の乱獲等により生息数は激減しています。円山動物園では展示するだけでなく、繁殖を目的とした管理も行うため成体のメス2頭の他に、亜成体のオスメス各1頭を飼育・展示中です。今年に入りガビアルの繁殖に向けた準備・各個体の引っ越しを行いました。



～空きマスのアクリル研磨・水漏れ修繕～

ガビアルモドキの繁殖に向けて成体のメスを移動し、空きマスとなっていた水槽のアクリル研磨・水漏れ修繕が今年の1月末から始まりました。は虫類館ができてから10年以上経ち、爪や鋭い歯で傷付いてアクリルが白く濁ってしまったり、どこからか少しずつ水漏れしてしまったりする状況だったため修繕をお願いしました。専門の業者さんに施工していただいたおかげで水漏れもなくなり、アクリルも傷が無くなり驚くほどきれいにみえるようになりました。



10年分の傷で白く濁ってしまったアクリル



研磨しクリアな視界に…

～メス 2 頭の引っ越し～

約 1 年半水深の浅い水槽で飼育していたメス 2 頭。水深の浅い水槽は今後 2 階のバックヤードで飼育していた亜成体のオスとメス 1 頭ずつを飼育する予定のため工事の終わった水深の深い水槽へ引っ越しを行いました。ワニの引っ越しは意外と原始的で、水中にいるガビアルにロープをかけて、1 頭ずつみんなで引っ張って移動させます。しかし素直には移動してくれません。水中にいるガビアルにロープをかけると体を高速回転させる「デスロール」を繰り返します。陸に引き上げると頭を左右に振り噛みつこうとしてくるなど非常に危険なため、ワニが落ち着いたタイミングで一気に移動させていきます。またワニ類はとても神経質な個体も多く、移動時間が長くなるとストレスで死んでしまう事もあるため素早く移動させる必要があります。今回は 2 頭合わせて 1 時間程度で移動終了。特にケガなどもなく無事終える事ができました。



成体はパワーが凄まじいため総勢 10 名程度で移動の作業を行います。万が一のため逃げ道を確認し、盾もそばにおいてあります。



移動後は 2 頭とも落ち着いた様子でした。

～亜成体 2 頭の引っ越し～

成体のメス 2 頭の移動が終わり、12 年ぶりに空きマスとなった水深の浅いガビアルモドキの水槽。こちらがアクリルが傷付いてしまっているためアクリルの研磨をしていただき、ワニの展示マスが空きマスになる事もめったにないことなので大掃除もしました。清掃などが終わり、3 月下旬についに亜成体 2 頭(オス 1 頭メス 1 頭)の移動・同居を行いました。亜成体 2 頭は密輸で保護され 0 歳の時に円山に收容され、今まで 2 階のバックヤードにてそれぞれケージで飼育をしてきました。この 2 頭は国内でも希少なペアとなっているため繁殖に向けた同居を目指していましたが、同居して飼育させるためのスペースがなかった事、まだ若く体も小さかったため個別にケージ飼いをしていました。ですが成体のメス 2 頭が同居できたことで展示マスが 1 マス空き、今回亜成体 2 頭の移動・同居を行う事ができたのです。亜成体 2 頭を同居するにあたり、まずは 2 階バックヤードから水深の浅い展示水槽に移動させる必要があります。

まずは成体の移動の時と同様ケージの中にあるガビアルにロープをかけるところから始まりますが、体が小さい亜成体とはいえパワーはあるので引きずり込まれたり、飛びかかってこれない様に注意しながら素早く行います。



ケージ内にあるガビアルへのロープ掛け

ガビアルにロープがかかったらケージから引っ張りだし、用意しておいた専用の担架に素早く移します。担架にガビアルが乗ったら動けない様になり、しっかり挟み込んだのち、担架の取っ手に太めのロープをかけ、二階から展示水槽にエレベータの様にゆっくり降ろして移動させます。水中に担架が入ると、ガビアルは自分で担架から出て行ったため、担架を引き上げ、残る 1 頭も同じ手順で移動させます。



ワニの力でも破られないような丈夫な素材で作った専用の担架。まだ体も小さいため 4 人で下の展示場まで降ろしていきます。

移動させている間はとてもおとなしく、水に入ると自分で担架から抜けていきました。



～緊張の同居～

亜成体 2 頭の移動は無事 40 分程度で終わりホッとしていましたが、終わった瞬間から今までケージの中で他の個体を見たことのない 2 頭の同居が始まりました。同居は始まった瞬間からハラハラで、先に移動が完了したメスが、あとから移動してきたオスが水に入った瞬間に餌だと思ったのか尾に噛みついたのです…。幸い軽く噛んだため出血もせず、その後は威嚇するものの、お互いうまく距離を取り合い、闘争することもなく無事に同居が完了しました。現在は 2 頭ともお互いの存在になれたようで餌も食べるようになってきました。また朝見に行くと陸地で 2 頭並んで日光浴などを行っている様子も見られるようになってきました。



移動直後の 2 頭の様子



最近の 2 頭の様子

今回はガビアルにとっても、人間にとってもドキドキの移動でしたが、経験豊富な先輩方に指導・協力していただき無事終える事ができました。今後は当園でのガビアルモドキの繁殖に向けて、まずは亜成体 2 頭を成体のメスと見劣りしないくらいまで体を大きくさせていく事となります。ガビアルモドキはは虫類館入り口を右手に曲がって、正面にある展示水槽 2 マスで展示をしていますので、ぜひきれいになった水槽でじっくり観察していただけたらと思います。また月に 2 回ほどワニの給餌ガイドを行っていますので、機会があれば活発に動くワニたちの姿を見に、動物園に遊びに来てください。また進展がありましたらご報告します。ではまた…

豊作を願って

サポートクラブ会員の皆さん、こんにちは。キリン担当の飯田です。

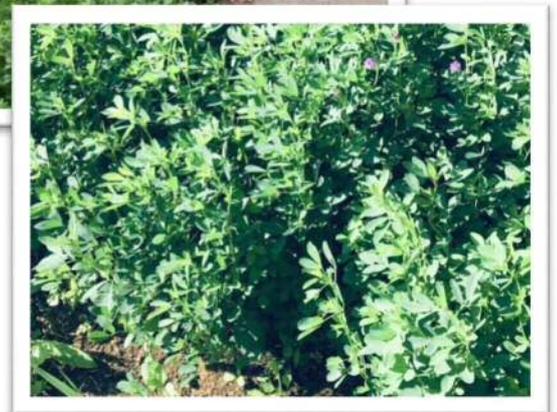
新年度を迎えて春の陽気が感じられ、動物園内の雪もすっかり溶けていきました。4月現在、観覧エリア、バックヤードともに様々な植物が芽吹いています。雑草のほか、草食動物に与える牧草も少しずつ伸び始めていて、刈り取りの時期が待ち遠しいです。

そこで今回は、よりたくさんの牧草を収穫するため畑を整備しましたので、そちらの様子をご紹介します。

たくさん採れたはずが・・・

例年、5月中旬にもなると、写真のようにもっさりとした牧草が生育します。みずみずしい新鮮なものは動物たちもとてもよく食べるので、夏季には牧草の収穫をしばしば行っています。

この牧草は、マメ科のアルファルファという種類のもので、キリンのような樹葉をたくさん食べる動物に適した牧草です。1度種をまくと数年にわたって伸び続け、何度も収穫することができますが、昨年頃から雑草の割合が増えてしまい、収量が次第に少なくなってしまいました。



昨年は5月中旬から与え始め、牧草を見た途端に寄ってきてもりもりと食べてくれました。キリンのほかにもエゾシカやエランドも好んで食べていました。

意を決して・・・

牧草を刈れば刈るほどに雑草の勢力が増すばかりだったので、思い切って昨秋から畑を一新し、土の掘り返しから雑草の除去、堆肥まき、種まきなどを行いました。私にとって畑を一から耕すのは初めての経験だったので、無事に牧草が育つかどうか不安もあり、園内に数か所ある畑のうち、ひとまず一部のみの実施としました。

無事に生育したら不純物のないまっさらな牧草を収穫することができます。夏の短い北海道だからこそ、限られた期間の中で旬なものを少しでも多く食べてくれたら嬉しいです。また、厳寒期にはたくさんのエネルギーを消費してしまうため、秋頃までにたくさん食べて冬に備えることが重要になります。



場所によってはほとんど雑草で埋め尽くされてしまっており、人力では根性出しても間に合わないので、他の方に手伝って頂きながら耕運機で土の攪拌を行いました。牧草はキリンだけでなく様々な動物が食べるので、各飼育員が協力して作業を行うこともあります。



8日後



一安心・・・

麒麟館すぐ横(バックヤード)の敷地を耕し、4/8に種まきを行いました。今か今かと発芽を楽しみに待って様子を見ていたところ、4/16に一斉に芽が出始めました。牧草の芽が出る前に雑草がしばしば顔を出し始めていたため、少しの不安がありましたが、発芽していることに気が付いた瞬間はとても嬉しく感動しました。

どれほどのペースで伸びていくのかわかりませんが、畑の観察が日課になりそうです。

今後は・・・

麒麟館横のスペースだけではとてもとても足りないなので、更なる開拓に加え、今ある畑にたい肥をまいたり雑草抜きをしたり、少しでも多く新鮮な牧草を収穫できるように手入れしていく予定です。今春だけではなかなか整備が終わらないので、長い目で見ながら地道に続けていこうと思います。



↑ ドアアップの麒麟の口